

山本委員別シート1

淀川部会 検討項目・意見提出

部会委員 山本範子

・河川環境整備の理念、哲学などを整備計画のゆるがない基本と位置づけたい。環境については、失われたもの、損なわれているものが想像以上に多大であった。

・これまでの経過からも、時代とともに科学的根拠・価値観が変化してゆくことは否めない。ベースの理念・哲学はそのままに、各論部分や詳細については将来の再検討、改定を妨げない方向でいけないか。後世にチェックを委ねるところは委ねて良いと思う。

・コスト縮減・コスト・パフォーマンスについて。河川は変動するし、気候も変動することがわかった。無駄をまったくなくすぎりぎりのコスト計算には不安を感じる。安心料の部分（無駄にはなるかもしれない治水のコストなど）がどれだけあれば妥当といえるのか？

・川上委員の報告から。住民のネットワーク、熱心な取り組みが行政とのパートナーシップが生まれた。今後、整備計画をすすめる上で、河川管理者と住民（NPO含む）の二者のパートナーシップに加えて、第三者的な委員会・学識経験者・地方自治体などに監視、チェックさせてパートナーシップの適切なありよう、意見調整をする機構を考えてはどうか。準備会議の段階から先駆的な取り組みをしてき淀川委員会であるから、河川環境について住民意見の聴取を恒久的に行えるしくみを模索していけるのでは、と考えます。

・河川管理者側には熱心な専門知識を備えた人材が多数おられることがわかった。整備計画の理念に沿った活動を上記の機構の一端を担っていただけないか。

・既存のNPO組織ばかりでなく、意識のそう高くない住民にも参加、発言を促し、モチベーションを高める工夫が必要になると思う。

・現在淀川流域委員会の委員は部会も含めて、100人にも満たない。上記のような組織を作るのであれば、より多数の目が必要と思う。

・本委員会・部会でいま何が話し合われているか、広報は充分か。委員会・部会で一般からの意見を募っているが、意見者から一方通行になっている、との声がでている。今後スポットで身軽に住民意見を汲み上げる公聴会の開催を。

・現在、川のそばに住む者としては、治水はやはり大きな関心事といわざるを得ない。が、環境重視の方向に思い切って舵をとらなければならない時期という認識はうまれた。

・堤外民地所有者や不法工作者、日常的に居住する方々についても、河川の安全確保や人的被害のないよう、さらに話し合ってもらいたい。

・正直に申し上げて、住民が河川敷を花壇のようにして「整備」したい、自分たちで管理して汗も流す、というのであれば、歓迎できること、と思うし、ふつうの住民の参加の第一歩では、と考えていた。草刈りも同じ。せめて草丈がのびすぎて防犯上視界が遮られるまえに、花粉がとぶまえに、管理者もしくは住民が草刈りを行いたい。何もしないで、自然のままに放っておくのが川の自然なありよう、という少なからぬ委員の方々の意見に、場所を区切った河川利用は許されないのか、お尋ねしていきたい。

以上